

＜神戸海軍操練所＞開設150年 勝海舟らの偉業しのぶ / 兵庫

2014年8月31日（日）12:54

 毎日新聞 

幕末の海軍の教育機関「神戸海軍操練所」の開設150年を記念した行事が30日、神戸市中央区新港町の跡地周辺で開かれた。創設を提言した勝海舟の子孫を始め、ゆかりのある人たち約40人が全国から参加。幕末の乱世に思いをはせ、先人の偉業をしのんだ。

幕府海軍を統括していた海舟は1863年、「神戸は天然の良港で国防の要になる」と幕府に進言。翌64年の開設にこぎつけ、自ら指導もした。坂本龍馬を始め、多くの幕臣や地方藩士が学んだが、反幕の疑いをかけられてわずか1年で閉鎖。直後からイギリス領事館として使われたため、外国人が集って洋風文化の礎を築いた。

この日の行事には、海舟が艦長を務めて太平洋を横断した「咸臨丸（かんりんまる）」の乗組員の子孫らも参加。咸臨丸に見立てた帆船で神戸港を周遊し、海上からビル群にある跡地を眺めた後、跡地の石碑に献花した。

当時の乗組員の子孫らでつくる「咸臨丸子孫の会」会長、藤本増夫さん（63）＝大阪市港区＝は「神戸に新しい文化を生んだ場所。勝海舟の先見性が分かると思う」と語った。

勝海舟の玄孫にあたる高山（こうやま）みな子さん（52）＝神奈川県鎌倉市＝は「海舟が神戸で若者の教育に情熱を燃やしていたことを知ってほしい」と話した。【後藤豪】

〔神戸版〕